



士別ロータリークラブ会報

創立 1960・3・24 RI第 2500 地区

Vol. 42 No. 2817

2022-2023年度国際ロータリーのテーマ

2022-2023年度R I 会長 ジェニファーE.ジョーンズ



かわにしの丘

R I ホームページ <https://www.rotary.org>

2022-2023年度R I 第2500地区テーマ

2022-2023年度R I 第2500地区ガバナー久木佐知子

ともに紡ごう！ロータリーの未来へ

- 会 長／細川 博司
- 副会長／神田 裕教
- 幹 事／大橋 直幸
- 例会場／士別グランドホテル
- 例会日／毎週月曜日 12:10～13:00
- 事務所／士別グランドホテル TEL0165-23-1234

2500地区ホームページ <http://rid2500.jp/>

士別RC <http://www.douhoku.jp/sibeturc/>

第2905回例会 2023年 6月 26日

今日のプログラム

・夜間例会

前回（6月19日）の記録 ・普通例会

司 会 神田英一 会場監督
 斉 唱 我らの生業
 本日の出席 会員 43人中 出席者 31人 出席率 72.09%
 本日の欠席 榎本実男・大江智宣・片庭隆暁・加藤博・神田英一・鈴木勉・田中道也
 本谷温恵・谷田之宏・奈良康弘・前田孝幸・水田孝志
 メークアップ
 ビジター
 ゲスト
 ニコニコBOX 織戸俊二会員（第1回パークゴルフ優勝）
 谷村一文（3クラブ親睦ゴルフ終了御礼）

累計 282,000円

例会予定

■ 6月例会日[ロータリー親睦活動月間]

- 6月 5日(月) 普通例会・理事会
- 6月12日(月) 普通例会
- 6月19日(月) 普通例会
- 6月26日(月) 夜間例会

■ 7月例会日[母子の健康月間]

- 7月 3日(月) 普通例会・理事会
- 7月10日(月) 普通例会
- 7月17日(月) 休会：海の日
- 7月24日(月) 普通例会
- 7月31日(月) 夜間例会

■会務報告.....細川 博司会長

皆さんこんにちは。

韓国の15歳未満の人口の割合は12%

参加する会員が増えるよう、韓国・第3650地区(ソウル)の女性委員会では、青少年施設と協力し、毎月イベントを行っています。

1月、ロータリアンはその青少年施設の若者30人をロッテワールドに招待しました。

メリーゴーラウンドやゴーカート、バイキング船などに乗って、参加者は遊園地でひとときを楽しみました。地区とロータリー会員は、チケットと食事のために約2,800ドル(約37万円)を集めた他、ガバナーエレクトのヤン・サク・リーさんがバスの費用を賄いました。

「この世はたくさんのいい人がいることを子どもたちに分かってほしかった」と女性委員会委員長のキー・ヤン・ソンさんは話します。

子供達は国の宝です。公平に楽しんでもらい思い出となる様にロータリアン同志で支援をしましょう。

ちなみに士別市の15歳未満1539人人口の割合は約9%です。

日本国も少子化対策として2.5人以上の家族が出来ないと人口は減少となります。

子育ての環境、保育所の増加、報酬の改善など3兆円以上の予算で子育て支援を実施と考えている様であります。

ロータリアンも出来る限りの支援をしてまいりましょう。

■幹事報告.....大橋 直幸幹事

1. 今月21日に開催されますロータリー塾ですが、講師の大野会員・神田英一会員を含め13名が出席されますことをご報告致します

2. 名寄ロータリークラブ様より会報と例会のご案内が届いております。

回覧ファイルに入れておりますので、ご自由にご覧ください。

3. 26日の最終夜間例会ですが、二次会にサンセット様を用意しております。

出席できる方は当日の流れに沿ってご移動ください。

■ウクライナへの医療物資を届けるロータリー■



医療物資をいっぱい積んだ2機の貨物輸送機がシカゴを出発。これらの物資は、現地の会員の協力を通じてウクライナ各地へと届けられます。

ロシアの軍事行為によるウクライナでの人道的危機が続く中、北米、アルゼンチン、ヨーロッパのロータリー会員が、米国のウクライナ人医師会との協力や自らのネットワークを駆使し、医療物資100トン超を収集しました。ロータリーはウクライナでの人道的危機に対応しています。

止血帯、止血ガーゼ、血圧計など、集まった大量の医療物資は、2機の貨物輸送機でシカゴからヨーロッパに運ばれました。現地で最も必要とされる物資を特定するために、ロータリー会員が病院と毎日連絡を取り合っています。

国際ロータリー理事エレクトであるパット・メリーウェザー-アルジェスさん(ネーパービル・ロータリークラブ[米国]会員)は、「ロータリーは、ネットワークを築き、人びとを結束させ、物事を成し遂げることに長けている」と話します。

必需品リストにある物資や機器を購入するため、北米とアルゼンチンのロータリークラブがリソースを寄せ集め、製薬会社や医療機器製造業者の知り合いを通じて物資を集めています。シカゴ近郊の病院が救急車1台を寄贈したほか、米国メイン州の会員は「Cアーム」と呼ばれる、爆弾金属片による負傷者のための可動式X線装置1台を確保しました。

こうした物資は、北米ウクライナ医師会(UMANA)が運営する倉庫に次々と集まっています。数百マイル離れた他州のロータリークラブからも、大型トラック数台分の物資が、シカゴのオヘア国際空港近くにあるこの倉庫に運ばれています。倉庫内では、UMANAとロータリーのボランティアが、発送前の物資の整理と仕分け、梱包を行っています。発送費は数名から寄せられた寄付で賄われます。